

# 平成三十一年度定時総会を開催

日建連は四月二十七日、東京・千代田区のホテルニューオータニで平成三十一年度定時総会を開催した。総会では、平成二十九年決算の承認、理事の補充選任が行われるとともに、平成二十九年事業報告、平成三十一年度事業計画・予算等が報告された。定時総会における山内会長の挨拶を掲載する。

## 平成三十一年度定時総会における山内隆司会長挨拶

本日は、会員各社の皆様方にはご多用のところ多数ご出席いただき、心より御礼を申し上げます。また日頃より当会の活動に、深いご理解とご支援を賜り重ねて御礼を申し上げます。平成三十一年度定時総会の開会にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

わが国経済は景気が緩やかな回復基調をたどる中、政府はデフレからの完全な脱却を図り、民需主導の持続的な経済成長につなげていくため、「人づくり革命」「働き方改革」「生産性革命」などの様々な施策に取り組んでおります。建設業界におきましても、政府の経済政策や

産業界の積極姿勢のもと、産業の基本的な責務である建設事業の着実な遂行に加え、他産業と比較して建設業就業者の高齢化が顕著であることを鑑み、「働き方改革」と「生産性革命」を強力に推進し、担い手の世代交代に確固たる道筋をつける必要に迫られている状況にあります。

このため、当会は、「週休二日の実現」と「建設キャリアアップシステムの普及・推進」を平成三十一年度事業計画における二大事業と位置づけ、業界の命運をかけて取り組む姿勢を明確に打ち出すことといたしました。

一点目の週休二日の実現につきましては、昨年十二月に「週休二日実現行動計画」を策定し、五年後の二〇二一年度までに会員企業の建設現場を四週八閉所とすることによる完全週休二日

に受け止めていただけるよう、施工者自らが生産性向上により自助努力を重ねることを第一義として取り組むとともに、発注者のご理解をいただきながら、できることから着実に週休二日の実現を目指してまいりたいと考えております。

二点目の建設キャリアアップシステムの普及・推進につきましては、本年秋からの運用開始を見据え、いよいよ実務的な対応が始まります。約三三〇万人もの建設技能者の技能・経験などを業界横断的に登録・蓄積する本システムの本格運用により、建設技能者が長年培ってきた技能・経験などが正当に評価されることで、業界全体の技術力の底上げと若年層の入職促進につながるものと期待しております。

当会では、昨年十二月に策定したロードマップにおいて、登録開始後一年半が経過するまでに建設技能者五〇万人の登録を達成するという高い目標を掲げています。会員各社におかれましては、来月から開始される登録申請に際して、自社の事業者登録をはじめとする各手続きを積極的に進めていただきたくお願いいたします。

また、従前、官民が連携して取り組んでまいりました建設技能者の処遇改善に関し、去る三月二十七日に開催された国土交通省と建設業団体との意見交換会におきまして、石井大臣から改めて建設技能者の労務賃金引き上げの要請が



懇親パーティーの様子

ありました。

これを受けて当会は、翌日開催の理事会において、適正な労務賃金の支払いを含めた「働き方改革の推進について」を決議し、会員各社にご協力をお願いしたところでありましたが、公共工事では引き上げ後の設計労務単価に見合う賃金水準を確保し、民間工事においても全産業平均レベルを目標とした労務賃金の引き上げを目指して、前向きに対応くださいますようお願い申し上げます。

東京オリンピック・パラリンピックの開催を二年後に控え、消化高がピークに向かう中、適正な施工体制の確保と一層の生産性向上はもとより、当会が取り組むべき課題は山積しております。いずれも困難を伴うものばかりですが、本部・支部ともに、今年度の事業計画に掲げた各テーマにそれぞれの委員会・部会が精力的に取り組むことにより、多様な知見に錬磨された解決への道筋を見出すことができると考えております。

これからも、多くの会員の皆様にご協力の活動にご参画いただけるよう意を配しながら、建設業の持続的発展に向けた歩みを着実なものにしてまいり所存でございますので、本日ご出席の皆様方には、当会に対するなお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが開会のご挨拶とさせていただきます。



挨拶する山内会長

の定着を目指しております。会員各社におかれましても、それぞれの「週休二日アクションプログラム」に基づき、建設業の積年の課題である週休二日の実現に強い覚悟をもって取り組んでくださいますようお願いいたします。

また今月より、国土交通省・厚生労働省・経団連・日商・連合にご後援をいただき、建設業関連一三団体の共催による「統一土曜閉所運動」を開始いたしました。将来的に建設現場の週休二日と四週八閉所が当然のものとして社会